

議員への信頼、感謝の念が伝わる 住民にとってなくてはならない議席(利府町)

商店街で話を聞く中山郁美福岡市議(右から2番目)



6日の午前中、利府町の安田候補とともに赤旗読者を訪問。会えたところでは、せきをきったように、行政の対応への不満がだされました。震災以外でも、保育所の民営化や図書館の指定管理者導入に怒る声も寄せられ、党議員団が唯一反対してきたことへの信頼、安田候補への期待の声も寄せられました。

午後は、塩釜市の曾我議員とともに商店街を訪問。福岡の熊谷市議も一緒です。およそ20軒と対話になり、店の復旧

に対する支援が極めて不十分であることが浮き彫りとなりました。あるお店では、「店を再開したが、うちだけ開けて良いのか。申し訳ない気持ちで一杯だ」と話され、私は「そんなこと無いですよ」と言うしかありませんでした。

みんな、多くは語られないけれど、復興へのかたい思いが、それぞれから伝わってきました。議員団に対する信頼、感謝の思いが伝わって来る行動でした。住民にとって、なくてはならない議席ですね。(中山郁美福岡市議)



訪問して話を聞く宮本秀国福岡市議(右)



現場の状況を見る八記博春北九州市議(中央)

ボランティアに関するお問い合わせは下記までお願いします。

■安達安人(熊本地区副委員長)

090-9589-9433

「今度から共産党に」「共産党頼りにしてる」— 6日の笠井質問に反応ぞくぞく

笠井亮衆院議員が6日に行った国会TV質問(玄海原発説明会での九電“やらせメール”問題)に、激励の電話が相次いでいます。佐賀県委員会では、朝から電話の対応に大忙し。関東地方の赤旗読者からも電話で激励されました。

寄せられた反応の一部を紹介します。

「テレビで見た。共産党が質問したことにより、再稼働のスケジュールが変わらざるを得なくなり、心底よかったと思っている。素晴らしい質問で、共産党しか頼れるところはないと思った」(佐賀市内の女性から佐賀県委員会へ)

「赤旗の『やらせメール』記事(2日)を見て驚いていたが、笠井さんの質問を見て、良い質問だと思った。九電社長の会見ニュースも見た。赤旗が500円値上げになっても、引き続き読みたいと思う」(関東地方の赤旗読者の男性から佐賀県委員会へ)

「昼間、家で国会中継を見た。共産党さんのおかげで再稼働は延期のようになってきた。本当にありがたい。さらにかんばりましょう」(プルサーマル反対の市民団体の方から佐賀県委員会へ)

「再稼働が延びそうでよかった。玄海町長は軽率に容認したが、あまりにも再稼働を急いだ結果、こうなってしまう

た。恥ずかしいとは思わないのか。共産党がんばってくれ」(佐賀市内の方から佐賀県委員会へ)

「きのうの国会質問は素晴らしい。私の周りでもその話でもちきり。真実を引き出す、これが本当の国会質問。政治が変わると思って、総選挙で民主党に入れたが、あの民主党のていたらくは何だ。もう政治に嫌気がさして、どこにも入れようがないと思っていたが、今度から共産党を応援します。正しいことを言うところが伸びないとダメですよネ。共産党の取り組みに、やれる事は協力しますよ」(50代男性から福岡県委員会へ)

「九電やらせメール事件を新聞で見た。九電と社長を刑事告訴すべきだ。私は以前、自民党だったが、地震国に危険な原発をこれだけ作ってきたのが自民党。今の民主党もひどいが、自民党も公明党も悪い。ドイツに見習うべきだ。日本には共産党がおらんと困る。徹底的に追及してがんばってほしい」(男性から福岡市議団へ)



質問する笠井衆院議員 7月6日